

国語科における資質・能力の育成を目指した授業づくりのポイント

教材分析はこう変わる 子供に身に付けさせる力の視点からの教材分析【教材例：「風切るつばさ」東京書籍 6年】

① 学習教材の系統と既習事項との関連を確かめることがポイント【例 文学「読解」系統】

Three boxes comparing learning stages: 'これまでについている力' (5 years), '本単元で付きたい力' (6 years), and 'これから付きたい力' (6 years).

児童が学んできた資質・能力を授業で引き出すためにも系統を確かめる。

② 学習指導要領の重点指導事項と児童の実態に応じて学習する言語活動を設定することがポイント

Three boxes detailing '重点指導事項', '児童の実態', and '物語を読み、人物相互の関係を考えながら、物語の場面や全体を漢字1文字で表すこと'.

③ 単元で育てたい「資質・能力」とその手立てを3つの視点に沿って明確にすることがポイント

Three boxes for '学びに向かう力・人間性等', '知識及び技能', and '思考力・判断力・表現力等' with their respective teaching methods.

【設定した言語活動 物語を読み、人物相互の関係を考えながら、物語の場面や全体を漢字1文字で表すこと】

教科の本質に向かう学びへ 授業展開の工夫

④ 単元の導入では、児童が自分ごととして解決したい「問い」を見出し、学びに向かう主体性や必然性をもってゴールまで取り組む見通しを教師と児童で設定することがポイント

児童が主体性や必然性をもち、「自分事」として解決したいと思う学習するには「教科書にあるから学習しましょう」ではなく、実生活や身近なものからきっかけをつくり「興味をひく課題解決場面」を設定したい。

児童の主体性を大切にした国語科の単元づく

Diagram showing the flow from '他教科・生活の中での気付きから' to '「自分事」の課題として解決したい学習へ' and finally '児童の声からゴールを設定'.

⑤ 授業では、単元のゴールに向けて身に付けさせたい資質・能力の育成を図るとともに、その過程において協働的な学びから生まれる「言葉による見方・考え方」の広がりや深まりを大切にすることがポイント

知識及び技能の習得（言語能力の育成）は協働的な学び合いによって達成させたい。例えば、ある児童から出された考えに対して、即座に教師がその児童に返答するのではなく、他の子への投げかけ、全体での吟味・検討、教師が意図した児童と児童をつなぐ働きかけや、児童がペア・グループで課題を解決しようとする場面を設定することである。



⑥ 児童が身に付けた力を活用してゴールを目指すとともに、そこに至るまでの学習の経緯を児童が振り返ったり自分の成長や変容を自覚したりすることがポイント

単元の終わりでは「何を学んだか」「どのように学んだか」その結果「何ができるようになったか」という学習過程の成長を児童に自覚させたり、振り返らせたりしたい。

Diagram showing '学習の振り返りのイメージ' with stages: 自力解決, 協働解決1, 協働解決2, 自己変容. Includes a note about '振り返りを書いたノート'.

子供の資質・能力の変容をどうとらえるのか 授業分析の工夫

⑦ 授業や単元の終わりに児童が書く学習過程の「振り返り」から授業分析をすることがポイント

授業後に児童が「振り返り」で書いたことを分析することは、資質・能力の変容を捉えるために有効である。「振り返り」は、児童が自分の学びを見つめ直すとともに、次時の授業や単元のゴールへとつなげていくものでありたい。



⑧ 児童の思考に沿いながら、構造的で課題とまとめの整合性がとられた板書になっていたから授業分析することがポイント

板書には1単位時間の学習の「現実的な結果」が表れている。よい板書には、課題に対する答えや付きたい力のポイントが学習の流れに沿って分かりやすく表されている。



⑨ 全校研究授業では、変容となる場面にしぼって検証する。そのためにビデオ映像を使い全員が児童の事実の姿で協議したり授業分析をしたりすることがポイント

授業改善のためには、私たち教職員が校内で互いに切磋琢磨し、学び合える環境を自分たちで作り上げていくことが大切である。



ビデオを使って変容の実際を児童の姿で確認